

## 999. Boole 空間 ニツイテ

小笠原 藤次郎(廣島文理大)

vector lattice<sup>(1)</sup>, “表現論”へ、補足ト並ビニ、ソ  
ノ作用素論等へ、應用ヲ可能ニスル足場ヲ作ルコトガ目的デ  
アル。“表現論”ガ Archimedean 1 場合ニ於テニ  
complete, 場合ト本質的=大差ナク成立ス。根據ハ何  
カ。コレヲ前田先生、表現法ヲミトニシテ明確ニスルタメ  
§1, §3 デ Stone, 着想<sup>(2)</sup>ヲ補ツテ Boole 空間トソノ上、

---

(1) 前田文友, 小笠原藤次郎, vector lattice, 表現。以後  
コノ論文ヲ“表現論”ト呼ブ。

(2) Stone, Proc. Nat. Acad. Sci. 26 (1940), 280-283.

連續函数，vector lattice ト，関係ヲ調べタルデハ上記問題，解答トシテ Archimedean vector lattice ハ無制限 = join, meet ヲ保存シテ complete vector lattice = 埋藏サレル<sup>(3)</sup> コトヲ示ス。§4 デハ前田先生，measure，補足タルデハ“表現論”ヘ，簡単+補足ヲ加へシ。應用ニツイテハ本誌ノ間モ+ク論述ルコトニスル。

§1. 定理 I.1.  $\mathcal{J}_\alpha$  ヲ Boole 代数 A，表現 Boole 空間トスルトキ次，諸條件ハ互ニ對等デアル。

- (1°) A ハ complete ナル。
- (2°)  $\mathcal{J}_\alpha$  上，任意，Borel 集合ハ第一種集合ヲ法トシテ  $\mathcal{J}_\alpha$  1 basic open set<sup>(4)</sup> ト一致スル。
- (3°)  $\mathcal{J}_\alpha$  上，任意，B-可測（Borel 可測，コト）有界函数ハ第一種集合上ヲ除イテ 連續函数 ト一致スル。
- (4°) 第一種集合ヲ除イテ 有限値ヲトル  $\mathcal{J}_\alpha$  上，任意，B-可測函数ハ非稠密集合ヲ除イテ 有限値ヲトル 連續函数 ト第一種集合ヲ除イテ一致スル。

(証) basis open set ハ O 或ハ  $O_\alpha$ ，開集合ハ G，Borel 集合ハ B 或ハ  $B_\alpha$ ，第一種集合ハ P 或ハ  $P_\alpha$  等デ表ス。

(P)  $\rightarrow$  (2°) 証。 $m \in O \Delta P$  ( $O$  ト  $P$ ，對稱差)，形  $\cap$  モツ集合 1 族トシ次，(i), (ii), (iii) が成立スルコトアリ也ベ可ナリ。

$$(i) E \in m, 1 \neq E^c \in m \quad (ii) E_n \in m, n=1, 2, \dots, 1$$

(3) 中野彦五郎，紙上談話會，1941，9/15

(4) 開且閉集合，コト。

$\exists \sum E_n \in \mathcal{M}$  (iii)  $G \in \mathcal{M}$ . コンビナ (i), (iii) より  
自明 (ii) より  $E_n = O_n \Delta P_n$  より  $\sum E_n \Delta \sum P_n \leq \sum P_n$  が成り立つ。

(2°)  $\rightarrow$  (3°) の証明。 $f(p)$  が有界-B-可測トシ  $E_\alpha = \{f(p) < \alpha\}$  ( $\alpha$  は有理数) と置く。假定ヨリ  $E_\alpha = O_\alpha \Delta P_\alpha$  が成立す。コトニテ  $\alpha < \beta$  にて  $O_\alpha \subset O_\beta$  が成立する。連續函数  $h(p)$  が次如く定義される。

$h(p) = g.l.b. \{\alpha; p \in O_\alpha\} = l.u.b. \{\alpha; p \notin O_\alpha\}$   
より  $h(p)$  が問題の連續函数ナルコトが容易に示される。

(2°)  $\rightarrow$  (4°) の証明 (2°)  $\rightarrow$  (3°) の証明を複用。

(4°)  $\rightarrow$  (3°) の証明 自明。

(3°)  $\rightarrow$  (1°) の証明  $\alpha$  を任意の index, 集合, 要素とする。 $f_\alpha(p) \in O_\alpha$ , 特性函数トシ  $f(p) = l.u.b. f_\alpha(p)$  と置いた時  $(3°)$  より  $f(p) =$  對應する連續函数  $h(p)$  となる。レバ  $h(p) \in \overline{\sum O_\alpha}$ , 特性函数ナルコトが示される。コレから (1°) が成立が明る。

定義 定理 1.1 の証明中、 $\mathcal{M}$  / 集合の單一可測集合、 $\mathcal{M}$  = 関シ可測+函数の單一可測函数ト呼ぶ。

定義 第一種集合上に除いた一致スル函数は對等ナリトイフ。

以下  $\mathcal{M}$  上の函数は第一種集合の除いた有限値のトルモントスル。

定理 1.2  $\mathcal{L}$  が Boolean 代数  $A$ , 表現 Boolean 空間トスル。 $A$  が complete トスルトキニ、條件ハ互に對等ナル。

(1°)  $f(p) \in \mathcal{L}$  上の可測函数ナル。

(2°)  $f(p)$  は Baire 1 性質である。

(3°)  $f(p)$  は連続函数と對等である。

(証) 定理 1.1 の証明から自明。

定理 1.3  $S_b$  が bicomplete Hausdorff 空間となる上、有界連續函数族  $\mathcal{L}_B$ 、非稠密集合  $\mathcal{N}$  除いて有限値のトル連続函数族  $\mathcal{L}_{\mathcal{B}}$  とする。このとき次の諸條件は互に對等である。

(1°)  $S_b$  が complete Boolean algebra と表現 Boolean 空間である。

(2°)  $\mathcal{L}_B$  が complete vector lattice である。

(3°)  $\mathcal{L}_{\mathcal{B}}$  が complete vector lattice である。

[注意] (3°) は於て  $\mathcal{L}_{\mathcal{B}}$  の函数の和が有限値のトルであることを単純的かつ正確に定義する。詳細は以下、証明から明白である。

(証) (2°)  $\rightarrow$  (1°)、証  $S_b$  が開集合、basis として  $0 \leq f \leq 1, f \in \mathcal{L}_B = \{f > 0\}$  全体が既にラレルである自明。

今  $p_0 \in S_b = \{f(p_0) > \alpha > 0\}$  とすれば  $f_i = (f - \alpha) \vee 0 + \alpha$  とおくと  $\{f > \alpha\} = \{f_i > 0\}$  が成立する。 $f_n = n f_i \wedge 1, n = 2, 3, \dots$  とおいて  $\bigvee_n f_n$  を考へると、コレは  $\overline{\{f > 0\}}$  の特性函数を表す連續函数である。従って  $\overline{\{f > 0\}}$  が開且つ閉即ち  $S_b$  が Boolean space である。 $\mathcal{B} = \text{basic open set } O_\alpha$ 、族  $\mathcal{B}$  へより特性函数  $f_\alpha(p)$  から  $\bigvee_\alpha f_\alpha$  を作るとコレから  $\overline{\sum O_\alpha}$  が開集合を作ることを知る。故に  $S_b$  が complete

plete Boolean algebra 1 表現空間デアル。

(1°)  $\rightarrow$  (3°) の証。  $f, g \in L_{\mathcal{B}}$ ,  $f + g$  定義, 可能性及び  $f_2 \geq 0$  のとき  $\bigwedge f_2$ , 存在証明を行へべ充分デアル。有限値のトル点  $f(p) + g(p) = \bigvee f + g$  の値決定コレト對等 + 連續函数  $f_2$  以テ  $f + g = f_2$  ト成タル。

$f(p) = g \cdot \bigwedge f_2(p)$  ト置クトキ  $f(p)$  は上半連續函数デアル、コレト對等、連續函数  $f_2$  トスレバ  $f_2 = \bigwedge f_2$  トナ。

(3°)  $\rightarrow$  (1°) の自明。依ッテ定理へ完全=証明サレタ。

(注意) 本定理、條件が成立スルトキ  $L \supset L_{\mathcal{B}}$  合ム  $L_{\mathcal{B}}$ 、vector sub-lattice トスルトキ  $L$ 、函数 = ヨリ 区別シ得 + 1 点即チ  $L$ 、函数が皆 = 相等シイ値のトル点の恒等視し  $S_{\mathcal{B}L}$  作ツテ  $L \supset S_{\mathcal{B}L}$  上、vector lattice ト皆ヘルコトが出来ル。  $S_{\mathcal{B}L} \wedge L = \text{ヨリ}$  單独的二元スル bicomplete Hausdorff space が  $S_{\mathcal{B}L}$  上、有界連續函数  $\wedge L$ 、函数同一様 = 近似スルコトが出来ル。コノ極相的手段ハ周知、コトデアルカラ改メテ述ベルフデモ + 1。以下  $S_{\mathcal{B}L}$  作ルコト  $\Rightarrow S_{\mathcal{B}} \wedge L = \text{依ッテ reduce ルト云フコトニスル}.$

§2. “表現論”，第二節、記法及び結果ヲ利用スル。  
 $L$  Archimedean vector lattice トシ、  
normal ideal、全体  $\wedge N$  トスレバ  $N$  、complete Boolean algebra ト作ル。  $\wedge$  表現空間  $S_{\mathcal{B}}$  上  $L$  の對

ベスル連續函数，vector lattice  $\Rightarrow \mathcal{L}$  トシ  $\mathcal{L}$ ，函数  
 =ヨリ majorize +  $\vee \mathcal{L}^{(1)} \mathcal{L}_\infty$ ，函数族  $\mathcal{L}$  デ表ス。  
 $\mathcal{L}$   
 $\wedge \mathcal{L}_\infty$ ，vector sub-lattice トシ  $\neq$  complete +  $\Rightarrow$   
 トハ自明デアルが次，定理が成立アル。

定理 2.1 無制限 =  $L$ ，join，meet  $\Rightarrow$  保序スル  $L$   
 ト合ム最小，complete vector lattice  $\bar{L}$  が存在ス  
 ル。<sup>(2)</sup>  $\bar{L}$  ハ 1 ヴレ  $\in \bar{\mathcal{L}}$  = linear-lattice-isomorphic  
 デアル。

(証) 任意， $h \in \bar{L}$  トル。 $g = \wedge(f; f \geq h, f \in L)$   
 トオイテ  $h - g$  トナルコト及ビソ，dual が成立スルユトヲ  
 示ス。 $g \geq h + \lambda$  コト自明。モシ  $g > h$  トスレバ  $\alpha \in \text{cor}(e_\alpha)$   
 デ  $\alpha$   $\in$  トリ  $\alpha \in \beta^*$ ，トキ  $g(\beta^*) > h(\beta^*) + \lambda$ ，( $\lambda > 0$ )  
 ナラシメ得ル。

今  $x \in \mathcal{L}$ ， $0 < x < \lambda e_\alpha + \mu x$  トレバ  $f_x(\beta^*) \wedge \alpha \in \beta^*$ ，  
 $\alpha' \in \beta^* =$  徒ツテ  $0 \leq f_{x_0}(\beta^*) < 1$  或  $\wedge f_{x_0}(\beta^*) = 0$  ト +  
 ル。故  $= g \geq h + f_x$ 。

コレカラ  $\wedge$  定義ト矛盾スルコトが容易ニ分ル。dual  
 ナ部分，証明も同様ニ行ヘル。次 =  $M, N \subset L$  ノ部分集合，  
 且々  $x \in M, y \in N$  カラ  $x \leq y$  が成立スル maximal set  
 トスル。コトキ  $\wedge(y-x; x \in M, y \in N) = 0$  が成立ス  
 ル。コレハ表現空間デ  $V(f_x; x \in M) = \wedge(f_y; y \in N) \in \bar{L}$   
 が成立スルコトカラ知ラレル。コレカラ証明，本筋ニ入ル。

(1)  $|h| \leq f$ ， $f \in L + \mu$  如キ  $h \in \mathcal{L}_\infty$ ，全体。

(2) 中野秀五郎，紙上談話會 1941, 9/5.

$\sqcup$ , join, meet  $\Rightarrow$  無制限 = 保存スル  $L \Rightarrow$  合ム complete vector lattice  $\Rightarrow$  考ヘタトキ  $L$ , 要素デ majorize サレル要素, 全体  $\Rightarrow \bar{L}$  トシ  $\bar{L}$  ト  $\bar{L}$  トが  $L \leftrightarrow \bar{L}$ , 関係  $\Rightarrow$  保存シテ linear-lattice-isomorphic + ルコト  $\Rightarrow$  示セバヨイ。コノ関係ハ  $x \in \bar{L} =$  対シテ  $M = (x; x \leq z, x \in L)$   
 $N = (y; y \geq x, y \in L) =$  依ッテ  $\forall = \bigvee_{x \in M} x = \bigwedge_{y \in N} y$  が成立

スルコトカラ  $\bar{L}$  ト  $\bar{L}$  ト, 間ニ成ル, 欲スル對應が得ラレルコトが分ル。

以上ニヨツテ本定理ハ証明サレタコトナル。コノ定理, 証明カラ次, コトが分ル。

定理2.2.  $L \wedge L$ , linear-lattice-isomorphic + 表現デアルガ  $L_\alpha$ , sublattice トシテ 無制限 =  $L$ , join, meet 保存スル表現デアル。

定理2.3. 無制限 =  $L$ , join, meet 保存スル  $L \Rightarrow$  合ム唯一シ, 最小,  $\sigma$ -complete vector lattice が存在スル。

§3.  $\sigma$ -Boolean algebra, 表現 Boolean 空間ニツイテモ  $\sqsubseteq$ , 所論ニ類スルモ / が得ラレル。

定理3.1.  $\mathcal{A} \Rightarrow$  Boolean 代数  $A$ , 表現空間トスルトキ次, 條件ハ互ニ對等デアル。

(1°)  $A$ ,  $\sigma$ -Boolean 代数デアル。

(2°)  $\mathcal{A}$ , basic open set  $\Rightarrow$  合ム最小, Borel 族, 任意, 集合ハ第一種集合ヲ法トシテ basic open set ト一

致スル。

(3°) 任意、有界 Baire 函数ハ第一種集合上ヲ除イテ連續函数ト一致スル。

(4°) (3°)ハ函数ヲ第一種集合ヲ除イテ有限値トトル函数デ置キカヘテ得ラレ  $\forall \epsilon > 0$ 。

定理 3.2  $\mathcal{S}_2$  が Boole 代数 A, 表現 Boole 空間  $\mathcal{D}A$  が  $\sigma$ -Boole 代数, ト半第一種集合ヲ法トシテ basic open set ト一致スル集合, 族  $\mathcal{M}$  トスル ( $\mathcal{M}$ ハ Borel 族 =  $\mathcal{M}$ ) トキ次, 條件ハ互ニ對等デアル。

(1°)  $f(p)$ ハ第一種集合上ヲ除イテ連續函数ト一致スル。

(2°)  $f(p), \in \mathcal{M}$  = 開シテ可測デアル。

定理 3.3.  $\mathcal{S}_2$  が bicomplete Hausdorff 空間トスルトキ次, 條件ハ互ニ對等デアル。

(1°)  $\mathcal{S}_2$  ハ  $\sigma$ -Boole 代数, 表現 Boole 空間  $\mathcal{D}A$  トスル。

(2°)  $L_{\mathcal{B}}$ ハ  $\sigma$ -complete vector lattice トスル。

(3°)  $L_{\mathcal{B}}$ ハ  $\sigma$ -complete vector lattice トスル。

§4.  $\mathcal{S}_2$  が complete (或,  $\sigma$ -) Boole 代数 A, 表現 Boole 空間トスル。 $\mathcal{S}_2$ , basic open set ト含ム最小, Borel 族,  $\mathcal{B}$ , 第一種集合ヲ法トシテ basic open set ト一致スル集合, 族  $\mathcal{M}$  トスルト  $\mathcal{M}$ ハ

Borel 族である。今  $\mu(a)$ ,  $a \in A$  の値域トシテ Archimedean vector lattice  $L$  に  $\infty$  countably additive vector 値函数トスル。即ち  $a = \bigvee a_n$ ,  $a_n \wedge a_m = 0$ , ( $m \neq n$ ), トキ  $\mu(a) = \mu(a_1) + \mu(a_2) + \dots$  が成立スルモノトスル。又  $a = \bigoplus a_n$ , basic open set  $\sigma(a)$  トスルトキ  $\mu(\sigma(a)) = \mu(a)$  トキコトコレ basic open set 上, 集合函数トスル。

定理4.1.  $\mu(\sigma(a))$  は  $L$  上, countably additive + vector 値函数 = 拡大ナレル。尚  $\sigma(a) \neq \mu(\sigma(a))$  ト一致スルモノトキ countably additive + vector 値函数入唯一シカ存在シト。

(証)  $E \in L$ , トキ  $E = \sigma(a)$ , 形 (P は第一種集合)  
1 形 = カレル。 $\mu(E) = \mu(\sigma)$  ト置クコトニヨリ  $\mu(E)$ , 定義が確定スル。コレかみ上テ countably additive + ルコトカ容易=知テレル。 $\forall E = \bigcup E_i \neq \mu(\sigma(a))$  ト一致スル countably additive + vector 値函数トスル。 $\mu(E) = \nu(E)$  が成立スル  $E$  族ヲ  $\mathcal{N}$  トスルトキ  $\mathcal{N}$  ハ  $\forall$  性質ヲ  $\infty$

(i)  $E \in \mathcal{N}$  トキ  $E^c \in \mathcal{N}$  (ii)  $\sigma(a) \in \mathcal{N}$  (iii)  $E_n \in \mathcal{N}$ ,  $E_n E_m = 0$ , ( $n \neq m$ ) トキ  $\sum E_n \in \mathcal{N}$ . コレカ  $\mathcal{N} = L$  + ルコトヲ知ル。

(注意)  $\mu(a)$  が  $a \neq 0$ , トキ常ニ正ナラバ  $\mu(E) = 0$ , ( $E \in L$ ) ト  $E \in L$  が第一種集合トヘ對等, 命題ナリ。

定理4.2  $\mu(\sigma(a))$  は  $M$  上  $\infty$  countably additive

+ vector 植函数 = 扩大サレル。

(証) 定理 4.1, 証から自明。

▲ A が單 = Boolean algebra, トキ  $\mu(a)$  ト additive トスルトキ L が regular complete 且  $\mu(a)$  が lattice 的 = 有界, トキ  $\mathcal{B}_L$ , Borel 族上, countably additive + 集合函数 = 扩大サレル。コレハ連續函数空間, 作用素, 解析的表現ヲ得ルタメ = 重要 + モ, デアル。コレニツイテハ次, 機会 = ) ベル。

§ 5. “表現論”へ簡単 + 補足ヲ加ヘル。L ト Archimedean vector lattice トシ § 2 の述べタヌク = L,  $\mathcal{S}_L$  等ヲ考ヘル。

(i) 角谷氏, 定理

L が単位 e モットキ  $\mathcal{B}_L$  上デ E フカルコトニヨツテ コノ定理, 拡張が得ラレル。

(ii) “表現論”の  $\sigma$ -complete + L = 於テ主 ideal / 全体 P モ媒介トシタル, 表現ト, 関係。

L が単位 e モットキ P, 表現 Boolean 空間,  $\mathcal{S}_L$  ト一致スル。

(iii) Stone, 吉田氏, 方法ト, 関係。

L が単位 = 関シテ有界性, 條件モ具ヘストキ吉田氏, maximal normal subspace, 全体ト ( $\alpha; f_\alpha(\beta^*)$ ,  $\beta^*$  : fixed), 全体ガ一致スル。

(iv) “表現論”の導入サレタ測度ニツイテ。

鈴田先生, 可測集合ハトマテ § 4, 172 = 届ヒ § 4

ノ測度ト一致スル。測度〇ノ集合ハ第一種集合デアリ。測度〇  
ノ集合ヲ無視シテ 第一種集合ヲ無視シテ デ置キカヘタモ  
ノから、33ノ所論デアル。